

編集後記

毎号のことですが会誌編集は私ども編集委員の手を煩わせることなくスムーズに進みました。これも会員諸氏の挟間史談会に対する熱意の賜と、敬意を表する次第です。ただ、写真資料が多いことや体裁の修正が必要な原稿があったことなど、三和印刷さんには苦勞をお掛けしたと思います。お陰で今回の第四号も読み応えのある力作・大作が揃いました。また、会員ご家族の投稿も頂きました。熟読下さい。

尚、今年の総会で、史談会規約・役員の項に顧問が追加され河野百雄顧問が誕生しました。

最後に、願わくは更に会員と読者が増えますよう。

私事ですが今年四月に広島県と山口県の神社仏閣などを巡りました。中でも山口市内で立ち寄った「菜香亭」は印象に残りました。館員の説明によると、毛利家の料理人であった齋藤幸兵衛が明治初期に八坂神社の一角に開業し、鼠麴にしていた井上馨が主人の名前をもじって齋を菜に、幸を馨から香に換えて菜香亭と命名したと言う料亭です。料亭の営業は平成八年に終了しましたが、保存を望む市民の声を受けて山口市が当地に移築、補強補修して平成十六年から「山口市菜香亭」として市営貸館になっています。また、観覧もできますので全館と庭園を見て回りました。館内には伊藤博文を始めとして明治維新以降の憲政史に登場する名立たる人物の扁額が

並んでいます。一階の二室で百畳ある大広間に十八枚、その隣の展示室に六枚、受付前に一枚、二階居住部にも四枚あります。他に掛け軸が三幅あります。ここに沢山の扁額があるのは、菜香亭には木戸孝允ら山口出身の政治家が数多く出入りしたのと、揮毫を集めるのが亭主の趣味であった為だそうです。酒席の余興として揮毫したような筆跡もありました。

漢詩や論語から引用したものが多かった中で自作の詩篇も数枚ありました。安倍晋三現首相、田中角栄元首相などの名前もあります。また、佐藤栄作元首相が好んで使ったという二階の部屋からは、手入れの行き届いた庭園の桜が見頃でした。しかし縁側で愛用したというソファアセットは意外と質素でした。

山口県からは、明治・大正・昭和の時代に活躍した政治家や軍人が多数輩出したのを改めて知ることとなり、良い旅になりました。

「一家天地自春風」 伊藤博文（山口県萩市出身）

「万象具眼」 山田顕義（山口県光市出身）

（編集子）